



1990年-1991年
国際ロータリー第274地区

第12回 RYLA記録

ロータリー青少年指導者養成セミナー



第274地区 RYLA 委員会

ホストクラブ
コ・ホストクラブ

佐賀西ロータリークラブ
佐賀ロータリークラブ
佐賀北ロータリークラブ
佐賀南ロータリークラブ

R Y L A (Rotary Youth Leadership Awards) とは

◆ R Y L A 誕生

ライラ（R Y L A）が誕生したのは、偶然のきっかけからだ。

1959年豪州（オーストラリア）のクイーンズランド州は自治権獲得100年を祝うことになり、エリザベス女王がアレクサンドラ王女を名代として派遣された。この機会にアレクサンドラ王女と同年代の青年たちを招いて、100周年記念式典に参加させ、王女とも会わせようという計画がもちあがった。そして、ブリズベーンロータリークラブが、全豪から集まってきた青年リーダーたちのホストをつとめたのである。これらの青年達の資質の良さに感心したロータリアン達は、この催しを毎年行うことに決め、各クラブ2名ずつ青年を選んでブリズベーンに招待し、1週間文化、社会、教育プログラムに参加させることにした。こうして、R Y L Aは第260地区（現在の第963地区）で生まれたのである。

◆ R Y L A の主旨

R Y L Aに参加する人達がロータリアンと共に学び、若者の心の中に潜在している指導者としての素質を十分に引き出し育成助長し、あわせて生涯を正しく幸せに生きて行く為に、立派な人間性を創造することを主旨としています。

そしてR Y L Aに参加する青少年が社会的に責任を負うということを自覚して善良なる市民として、又日本国民としての心を育成して、職業的にも或いは社会的にも良い指導者となって社会の為、国家の為に貢献されることを期待いたします。

1949年アメリカで設立された指導者キャンプまで遡りますが現在のようなプログラムは1959年オーストラリアのクイーンズランド州の自治権獲得100周年を祝して地元のロータリークラブが若者たちを集めて指導者養成の為のキャンプを計画したことより始まります。その後同じようなプログラムがヨーロッパ、カナダに広がり1971年国際ロータリーの理事会によって全世界的な青少年活動のプログラムとして採用されました。

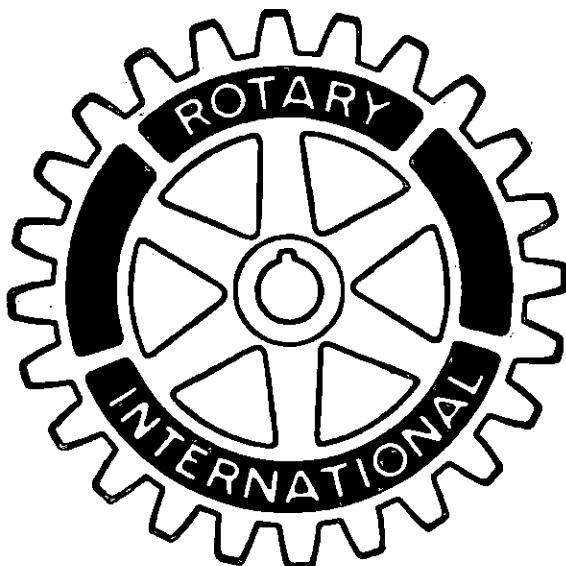


1990年～1991年
国際ロータリー第274地区

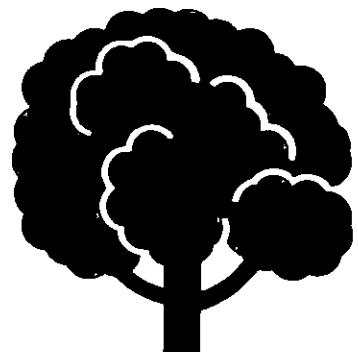
第12回

RYLA 記録

ロータリー青少年指導者養成セミナー



時代と
視み
つめ



ホストクラブ
佐賀西ロータリークラブ
コ・ホストクラブ
佐賀ロータリークラブ
佐賀南ロータリークラブ
佐賀北ロータリークラブ

目 次

プロ グ ラ ム	3	
ガバナー 講話 内田 衍	ガバナー	5
あいさつ 井田圓之	P・G	7
来賓あいさつ 仏坂勝男	北山少年自然の家・指導課長	9
開講のあいさつ 村岡二男	P Y L Y委員長	10
あいさつ 水田勝則	第2分区代理	11
ホストクラブ会長・あいさつ 元村和安	佐賀西RC	12
講演「運命の岐路」		
作家 笹沢 佐保	13	
講演「耶馬台国のナゾと吉野ヶ里遺跡」		
佐賀県文化財課長 高島忠平	16	
ライラの感想	18	
スナップ写真	22	
反省会	32	
ガバナー総評 内田 衍	ガバナー	36
閉会の言葉 平龍三郎	R Y L A 実行委員長	37
第12回 R Y L A 登録者名簿	38	

第12回 R Y L A プログラム

会場：佐賀県北山少年自然の家

テーマ = 時代を観つめて =

〔第1日目〕 2月9日(土)

13:00	佐賀西RC会員、関係者集合（オリエンテーション・入所式等）
16:00 ~ 17:00	登録受付
16:30 ~ 16:45	夕べの集い…………… (集いの広場)
17:00 ~ 19:00	夕食および自由時間
19:00 ~ 19:30	開会式およびオリエンテーション…………… (第1研修室)
19:30 ~ 21:00	講演『運命の岐路』 作家 笹沢左保氏 ……………… (第1研修室)
21:00 ~ 22:30	入浴および自由交歓
22:30 ~	消灯

〔第2日目〕 2月10日(日)

7:00 ~ 7:40	起床、洗面
7:40 ~ 8:00	朝の集い（ラジオ体操）…………… (集いの広場)
8:00 ~ 8:20	清掃
8:20 ~ 9:00	朝食
9:00 ~ 10:00	開講式…………… (第1研修室) 点鐘 国歌齊唱、ロータリーソング「奉仕の理想」 開講の言葉（地区委員長） 来賓紹介 ガバナー挨拶 来賓挨拶 歓迎の言葉（佐賀西RC会長） 歓迎の言葉（少年自然の家所長）
10:00 ~ 12:00	講演『耶馬台国のナゾと吉野ヶ里遺跡』…………… (第1研修室) 高島忠平氏（佐賀県教育庁文化財課長）
12:00 ~ 13:00	昼食
13:00 ~ 14:00	貸切バスにて移動（吉野ヶ里へ）
14:00 ~ 15:30	吉野ヶ里遺跡見学

15:30 ~ 16:30	貸切バスにて移動（帰所）
16:30 ~ 17:00	夕べの集い……………（集いの広場）
17:00 ~ 18:30	夕食および自由時間
18:30 ~ 21:00	活動（レクリエーション 関 指導者）……………（プレイホール）
21:00 ~ 22:30	入浴および自由交歓
22:30 ~	消灯

〔第3日目〕 2月11日（月・祝）

7:00 ~ 7:40	起床、洗面
7:40 ~ 8:00	朝の集い……………（集いの広場）
8:00 ~ 8:20	清掃
8:20 ~ 9:00	朝食
9:00 ~ 10:00	記念植樹ほか……………（集いの広場）
10:00 ~ 10:30	ガバナー講話……………（第1研修室）
10:30 ~ 12:00	反省会および各班の発表（3分×9班）
12:00 ~ 12:30	閉講式
	点鐘
	総評
	挨拶
	ロータリーソング（手に手つないで）
	閉式の言葉
	点鐘
12:30 ~	昼食
13:30	解散

平成の花咲じいさん

R I 第274地区ガバナー
内田 衍



皆さんおはようございます。第12回のRYLAが「時代（とき）を視（み）つめて」というテーマでおととい、昨日、今日と3日間に渡って行われました。大変な悪天候でございましたが、皆さん、外での寒さを乗り越えて一生懸命、素晴らしい成果を挙げられたことと思います。

第1日目はめったにお目にかかれぬ 笹沢左保先生から「運命の岐路（わかれみち）」と題して、昨日は県文化財課長の高島忠平先生から「耶馬台国のナゾと吉野ヶ里遺跡」についてお話を伺いましたが、遠い御先祖の住居あとや古墳を見学されまことすばらしいロマンを胸いっぱいに感じとられた事と思はれます。

喉の手術後、調子が余りよくなかったもので、私の代わりにパストガバナーの井田先生に代理をやって頂きましたが、本当に有難うございました。それに村岡RYLA地区委員長さん、地区委員の先生方、それから佐賀西ロータリークラブの元村会長さん始めクラブの皆さんにいろいろ準備して頂いて、こんなに素晴らしいRYLAが開けるようになり有難うございました。厚く御礼申し上げます。

本日は建国記念日という一つの節目ですが、青少年の指導をなされる皆様に素晴らしい記念植樹をして頂き、いつまでもいつまでも大きな成果としてこの地に成長していくと思います。素晴らしい記念だったと思います。

去年の3月にダラスのホットワーズというところで国際協議会がございました。その国際会議で私たちガバナー484人の前でパウロコスター国際ロータリー会長は次のように申されました。

1億5千万光年というだだっぴろいこの宇宙の中の太陽系、その太陽系の中の惑星地球、この地球の中に私たちは生活しているわけでございますけれども、その惑星地球に生を得ている私たちということを皆さんは思たことございますでしょうか。

また地球が生まれてから今日まで46億年と言われております。その長い歴史の中の今日の自分ということを考えた事がありますか。こういうことを考えた時に誰でもが瞬時にして消滅する命のはかなさ、生命のはかなさを感じられることだと思います。

ということをパウロコスター会長が言されました。私はこの話を聞きながら白楽天の詩を思い出したのでございます。皆さんも高校の時に教わったと思いますが、今読んでみます。

蝸牛角上争何事

石火光中置此身

従富従貧且觀樂

開口不笑此痴人

私流にこれを書き改めました。発表するのは皆さんをバカにしたようで、言うまいかと思いましたが、楽しかったので読んでみます。

デンデンムシの目玉の上で くよくよグチ
ヨグチョ何いってんの 花火のようににはかな
い命 錢があろうと貧乏じゃろと 一杯飲んで騒ごうじゃないか くよくよする奴あ気違
いだ

私はこれ自分流に書きました。英語の詩や
俳句、短歌などを自分流に書いて楽しむのも
いいと思います。

一杯飲んで騒ごじやないか くよくよする
奴は気違いだ 私はこれ書いて頭がすかっと
しました。

私はものすごく酒飲みです。それがたたつて
こういうことになったと思いますが…これは
余分なことでございます。

話が横道にそれましたが、白楽天が申しました
のに、石火光中置此身というのは、悠久
な自然の中で人の寿命、人の生命は花火にも
似た短い寿命ということで、本当にはかない
ものだと私も思います。この瞬時にしてはか
ない命というものをパウロ・コスター国際ロ
ータリー会長から聞きました。地球の反対側
にあるブラジルの方でございます。

この反対側にあるブラジルの会長さんがわ
れ東洋人と全く同じ「人生とはかないものだ」
という考え方を言われましたので、人間とい
うのは洋の東西を問わず考える事は1つと私
は強い感銘と近親感をコスタ会長に受けたの
でございます。

さらに申されました。「瞬時にして消滅する
はかない命、死んでしまえば何も残らないと
いうことを考えた時にあなたたちは寂しくな
いですか。後世に立派なものを残してやろう
じゃありませんか、と言われました。この何
かをしてあげたい、残してあげたいというの
がロータリーの奉仕の精神だと思います。何
かをしてあげたいという気持ちが一番大事な
ことじゃないでしょうか。

また我らの天体、地球の保全という言葉を
旗印にされました。「コスター会長は今、全世界
に110万人のロータリアンがいる、1人1本
づつ木を植えてくれませんか、そうすると110
万本の林がすぐ出来ます。御覧なさい、ブラ
ジルでも熱帯雨林がどんどん伐採され、伐採
後はハゲ山になっています。東南アジアでも、
インドでも、又アフリカでも砂漠化が進んで
います。

どうぞ皆さん、何とかしてこの熱帯雨林の
砂漠化を皆さん之力で阻止して欲しいと申さ
れました。これから何をしようかと考えるだ
けで良い、なんでもせんでもいいから何をし
ようかと毎朝毎朝考えて欲しい、これから何か
しようじゃないかと言って下さい。

自分たちの子孫のために何かしようじゃな
いか、と毎朝起きたら言って下さい。ただ思
うだけいいのです。明るい楽しい未来を思
う時に体はひとりでに動き出しているもので
ございます。何かをしなければと言う衝動に
かられます。そこに行動が始まり、子孫の為
に立派な地球を残してやる奉仕活動が始まり
ます。この活動こそがロータリーの奉仕と思
いますと申されました。

どうぞ皆さん何か嬉しい時、記念の時に1
本または1本と機会あるごとに木を植えて下
さい。松でも桜でもカエデでもいいと思います。
緑豊かなこの地球を私たちの手で遺産として
子孫の為に残してやろうではございませんか。

後世の人たちは私たちのことを平成の花咲
かじいさんと言ってくれるでしょう。そうな
れば本当に楽しいことではありませんか。今
日は素晴らしい植樹をされました。皆さんこの
植樹を意義あるものにして育てて行こうじ
ゃありませんか。どうぞ皆さん木を植えて下
さい。有難う。

それぞれの立場で 真剣な討議を

R I 第274地区パストガバナー
井 田 圓 之



みなさん、おはようございます。この山の中にはるばるお集まりいただき、その熱意に感謝致します。北山少年自然の家は研修をするには絶好の場所だと思います。明日、内田ガバナーがおいでになって講話をなさるということで、あるいは多少、だぶる所が出てくるかもしれません、できるだけ簡単にお話申し上げます。

ロータリアンのみなさんは既にご存じだと思いますが、一般の方もいらっしゃいます。そこでガイドブックにも書いてありますが、ロータリー青少年指導者養成セミナーとは何かをお話しします。ロータリーで我々が活動する基準になる手続き要覧というのがあります。その中にロータリー指導者セミナーについて書いてあります。「ロータリー青少年指導者養成プログラムは地区内の若い人々とロータリアンを参加させる地区のプロジェクトであり、若い人々の指導者および善良な市民としての資質を伸ばす事を目的としたものである」ということです。「ライラプログラムは世界各地でさまざまな形で行われているが、それぞれプログラムを開発した地域ならではの特徴を備えていることがある。しかし、ほとんどのプログラムはセミナーか指導者キャンプのどちらかの方法に基づく。どんな方式を取りにせよ、ロータリー青少年指導者養成プログラムはロータリアンに、青少年のためにというより、むしろ青少年とともに活動する

という、やりがいのある課題を提供している。また、このプログラムは現代的諸問題の出積している状況において青少年の指導力を育成する方法として立証済みのものである。」こういう文章が載っています。実によく練られた文章です。

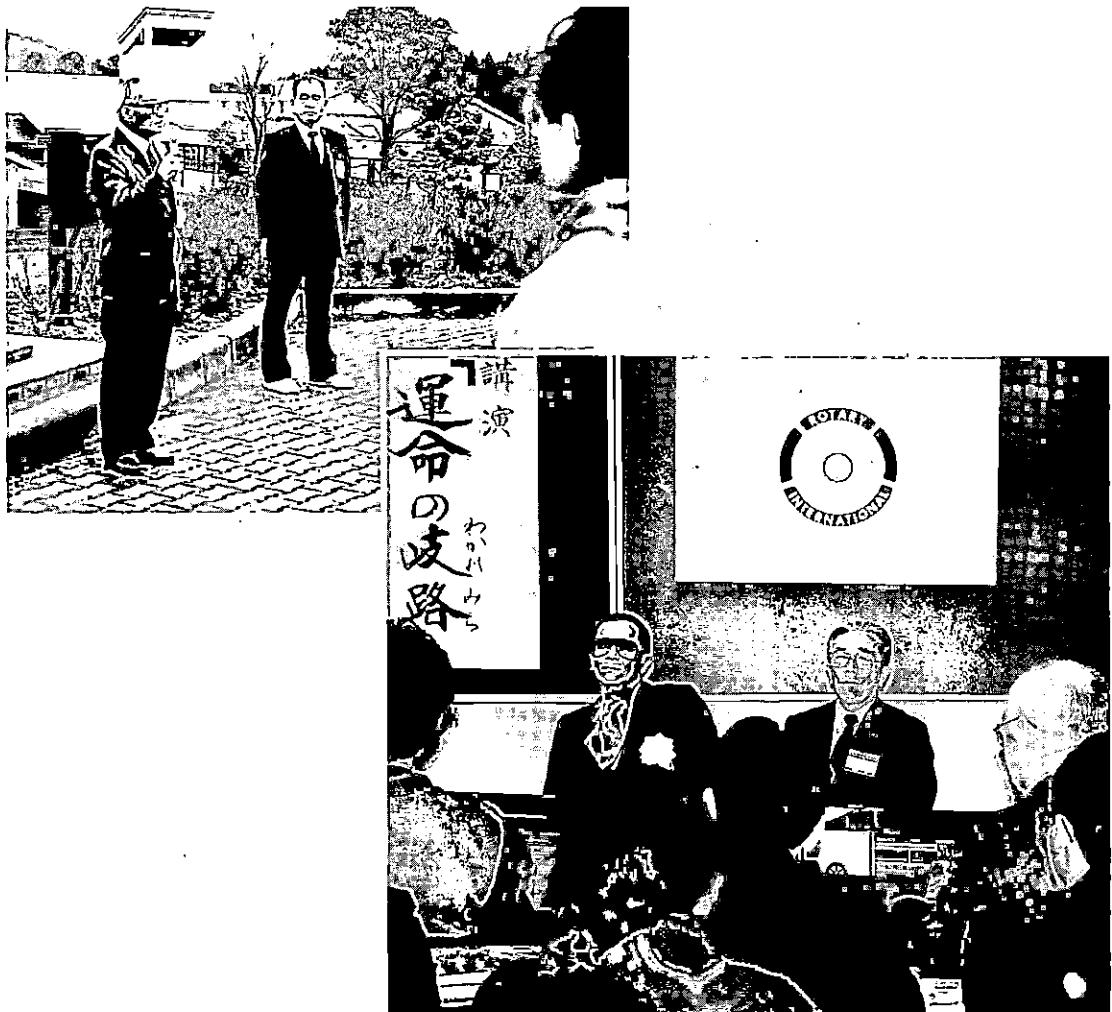
274地区は12回目になりますが、本当にこの地区ならではのライラを実施してきたと思います。昨年の諫早は雨の中、キャンプをやりました。予測しないことが起った時、人々に不安を与える、どういう風にリードしていくかという基本的な考え方を身につけるため、訓練をしておく必要がある。そういうことで、昨年はキャンプをしたわけです。

今日は話を聞いて、その中から自分たちは何を感じとればいいか、これからどうすればいいか。昨晚は笹沢さんの話を聞いて頂きました。知らなかつた笹沢さんの過去の体験を聞いて、なるほどと思う面もありましたし、また人間は微妙で強いものだと思いました。若い時、元気な時は自分で考えて感じ取ることができません。しかし、みなさんも40年、50年経てば、我々の年代にさしかかる。それは2030年、2040年ころですが、その時、地球はどうなっているか。そう考えた時、人間は何をしなければならないか。今は個人にとっては住やすいが、ある意味では難しい時にさしかかっていると思います。本当に何のために生まれてきたのか考える必要があるのでは

ないでしょうか。そしてどう過ごせば生まれてきた甲斐があるのか。それは自分だけのことではない。みんなが主張しながら、調和し合って理想的な世界を作っていく。

ところが、現実の世界はどうでしょうか。サダム・フセインは聖戦と言っています。私は日本が戦争の時、そう言っていたのを思い出します。多国籍軍には暴挙を許せないという大義名文がある。では、どっちが正しいのか。人間は理想的でありたいと思うけれど、どこでボタンをかけ違うか分からぬ。そして、予測のつかない方向に進んでいく。そうならないように、どうしたらいいのか。あるいはそうなってしまったら、どう処理したら

いいのか。私たちが日常をどう過ごし、考える時間を持っているかにかかっていると思うのです。老いも若きも一緒になって生きていることの意味、地球をどうもつていったらいのを真剣に討議してみるための昨夜の話ではなかったのかと思います。また、吉野ヶ里という国家の起源が佐賀に残っている。それを見られ、携わってこられた高島さんの話を聞き、人間の歴史を縦に考えて下さい。そこにこのライラの意味があることを話して挨拶にしたいと思います。みなさん、それぞれの立場で、それぞれの思いをぶつけ合い、真剣にあすまでお過ごし下さい。



自然の中で 実のある研修を

北山少年自然の家
指導課長 仮 坂 勝 男



みなさん、おはようございます。自然の家の指導課長の仮坂といいます。ここ北山自然の家は先程、紹介されましたように62年4月にオープンしました。年間のべ5万人の利用ですから、毎日100人ちょっとはいると思って下さい。このプログラムを見ましたら、数年前に黒髪自然の家でこの大会が開催されていますし、諫早、英彦山でも開かれているようです。ここは主に佐賀県の中学生、高校生をメインにした宿泊訓練施設です。すぐ裏には北山湖という佐賀県の水壩があり、最高水面で383㍍と聞いています。みなさんがいるここは400㍍と思って下さい。100㍍上がると0.6度、気温が下がるといわれていますので、大会が開催されるに当たり、路面が凍結するのでは、雪が降るので心配しましたが、今朝は12.3度ありました。ここは冬は冷えますが、夏は佐賀平野よりだいぶ、涼しいので冷房装置はありません。子供たちがここで何をするかというと、工作室で竹とんぼを作ったり、県境の雷山、井原山への登山です。朝9時40分にここを出発して、頂上につくのが12時20分ごろ。ごはんを食べて帰ってくるのが4時前後になります。夜は体育館で学校、子供クラブでの協力を勉強して帰ります。

私はこれから話をされる高島さんに16年間、ここに赴任して2年目ですが、「どうだ、山は

寂しくないか」と言わわれますが、ご覧になって下さい。周りは杉林です。主に戦前から戦後にかけて植林された山です。雷山に登って私が感激するのは「なで佐賀県の人は勤勉なんだ」ということです。登山道はほとんど杉の植林、福岡県側は植林されていません。この北山付近は人口的な手の加わった杉山です。

またここに宿直していると、カブト虫が楽しみで、子供たちも町では味わえない周辺の自然を満喫します。すぐ下にはキャンプ場があり、200人収容。生活棟は定員234人、最大300人までとれます。あす、あさってと平成4年度の利用受け付けをしますが、平成3年度は満杯です。施設も新しいし、みなさんは快適な生活環境ではないかと思います。ただし、へやにはテレビ、電話、バス、トイレは一切ありません。年間の収入は大人1泊200円もらっていますので、400—500万円です。支出はその10倍の4千—5千万円。それでも子供たちがここで元気よく、自分たちがどうすればいいかを楽しく勉強する。玄関で「さようなら、またこいよ」というと「また、来ます」と言ってくれる。それが、職員の大きな楽しみです。どうぞ、みなさん、2泊3日、ゆっくり、楽しく、実のある研修をされることを念じています。



「世界の情勢」、 「時代」を視つめて

R I 第274地区 R Y L A 委員長
村岡二男

おはようございます。国際ロータリー274地区ライラの開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。ご来賓に井田パストガバナー、水田第2区代理を迎えるとともにロータリアン、ロータークアト、一般青少年など大勢を迎えて開くライラでございます。ここ脊振山系、標高400㍍の自然豊かな北山自然の家を特別の計らいで全館、ライラのために提供していただき、指導員、職員のみなさまの大変な協力で開講の運びになりました。さらに、この日のために計画を重ねられた西クラブの平実行委員長はじめ、みなさまに敬意を表し、また、コ・ホストのみなさまにもあまたの協力をいただき、ありがとうございました。

さて、今回の研修テーマは「時をみつめて」でございます。前年度は2月10日から12日まで、長崎県諫早市の国立少年自然の家でライラが開かれましたが、テーマは「我ら、地球人」でした。時の瀬戸口委員長は開講の言葉の中で、私たちは世界、地球全体からものを考える時が到來したと言われています。そして「我ら、地球人」という問題提起をされました。寒い山中、テントの中、バンカローの中で討論した若者たちは誰ひとり、現在の世

界情勢を想像しなかつたでしょう。みなさんはフリーディスカッションの中でフレンドシップを説き、ふれあい、安心、喜びを説き、あるアクトの青年は思いやりを唱え、隣のアクトは国際交流の原点を求め、留学生は運命共同体ととらえ、それぞれが地球人として考えました。何と、平和でほのぼのした若者の発想があつたことでしょう。思えば、予言とはいかないまでも今回のテーマ「時を見つめて」に関連しているような気がしてなりません。

今日、世界では若者たちが憎悪に満ちながら血を流している。そんな中で、つかの間のライラの集いであっても、この平和を後世に伝えていかなければならないと思います。午後からは日本人のルーツを求めて吉野ヶ里を見学しますが、人類を通して偉大なる文明、文化に接することができれば、今回のライラの目的は達成されたと思います。最後に今回の登録者はロータリアン220名ロータークアト、一般参加含めて97名、総計317名に上りました。みなさんとともに実のあるライラの成功を祈ってやみません。

ひとり、ひとりが 木をもう1本……

第2分区代理（小城R.C）
水田 勝則

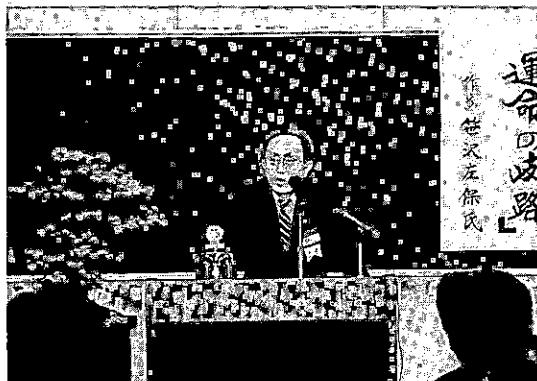


おはようございます。私は佐賀県第1から第3までのロータリーリークラブの佐賀西、佐賀北、佐賀南、佐賀、神埼、牛津、小城、この7つのクラブの世話役をしています。実はこのプログラムを見てびっくりしたのですが、内田ガバナーが挨拶され、来賓の井田パストガバナーの挨拶となっています。それが、私がここに座った途端に私の名前が挙がってびっくりした次第です。

先ほど、井田パストガバナーがいろいろお話をいただき、付け加えることはありません。この北山は杉、竹など木がいっぱいです。内

田ガバナーが今年のテーマとして「我らの天体、地球の保全」を説かれています。これはR.Cの世界を指導されているパウロコスタ会長がロータリーを高め、これを主体に自然を愛そう、木を植えようというもので、内田ガバナーも取り組んでいます。我らロータリアンもそれに向かって、1人1本でも木を植えようとしています。今日、集まりの若い方もこのセミナーを機会に木を1本、自分の庭、学校、会社に植えられることをお願いして、ご挨拶とします。





人の考え方 理解する力が不可欠

佐賀西ロータリークラブ

会長 元村和安

みなさん、ようこそおいでいただきました。この催しのホストを務めさせていただきました佐賀西ロータリークラブの会長ということでご挨拶申し上げます。この中にはロータリーとあまり関係なかった方もおられると思いますのでライラというものを御存じなかつたかと思います。今、パストガバナーなどのお話を聞きになって、こういうものか、とお分かりになったと思います。

今年はガバナー、分区代理の指導、村岡地区委員長はじめライラ委員の指示で、我々ホストクラブでは早くから実行委員会をつくり検討してきました。本来なら実行委員長が挨拶するのが本当ではないかというくらい、一生懸命やってもらいました。人間、特に指導者になろうとする人は頭も体も鍛えなければならない。昨年は体を鍛えましたので、今年は少し頭に力点を置きたいと思います。「時をみつめて」。時は時代と考えたわけです。焦点は今の時代ですが、ずっと昔から人間はどう

生きてきたかを見てもらうため、吉野ヶ里を訪れます。そして、長い間、遺跡発掘に従事された高島さんの話を聞く。それから佐賀の街に惚れこんで、住まいを移された笹沢さんの話を聞きました。昨夜の話の通り、深い考察、哲学的な考えをおもちです。結婚制度についての話では異論もあったようですが、私にはよく分かりました。弁護士をやっており、若い人が結婚をどう考えているか、親子、夫婦でどういう動きがあるかも承知しています。そういう面を見ると、ああいう考えも理解できます。いろんな問題を投げかけてもらったと思います。みなさんは若い指導者だと、ロータリアンは見ていますが、そうなるといろんな人の意見、考えを理解する力が不可欠です。

パストガバナーは私より10年先輩です。もうすぐ還歴、笹沢さんより少し若いという程度で、みなさんの父親世代です。胸を借りるつもりでぶつかってほしいと思います。今日は遠い所をおいでいただき、心より歓迎します。



「運命の岐路」

作家 笹沢左保

今日はいろんなことをお話ししようと思うが、こういう時期ですから一言湾岸戦争のこと觸れなければいけない。面白いことがありました。女の子なんですが、4、5歳くらいのが2人そろって「戦争はいけない」と大騒ぎしている、それはもちろん湾岸戦争のことなんだけども「戦争って何」と言ったら「知らない」。これは非常に日本の今を象徴していると思う。はっきり言えばいい加減なんですよ。

感性とか感情とかに左右されて地面に根差す生き方とか人生観をもたなくなっている。適当に生きている。私はそれを何とかしようという運動を10年前から起こしたんです。もう疲れ果てて止めました。反応が余りにもなきすぎるんです。10年前に全国で5万人の同志ができました。

10年間かかって5万人ですよ。200万人の同志をつくるのに、どれくらいかかるか分らない。ひとことで言うと「そんなお堅いこと言うなよ」。それで済ましてしまうんです。

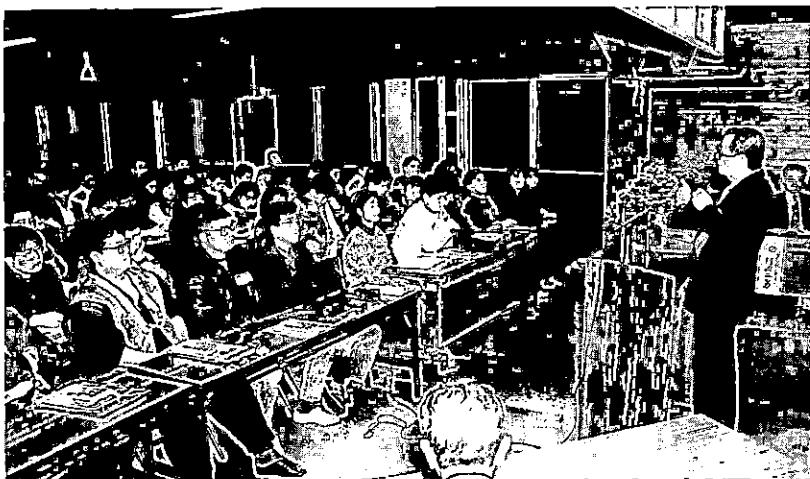
昔みたいに年寄りがしっかりしている時代

ですと、いろいろ若い者にも影響力持ったけども、今の年寄りがまだらしないでしょう。良い子になっちゃうんですよ。憎まれっ子でいなさい。年寄りが言っているんだからしそうがないやと、みんな妥協するでしょう。

良い子になっちゃう年寄りなんていらない。私は年をとればとるほどに、憎まれ口を言ってみんなに嫌われていますよ。嫌われるから長生きするんですよ。いつまで経っても死はない。文句ばっかりし言ってるんですよ。昔はそういう年寄りがいっぱいいたから、若者がだらしなくてもうまくいったんですよ。

最近のようにいいおじいさん、みんなに好かれる年寄りになる、そうすると子供に至るまで世の中の基本、人生の基本が分からなくなっちゃう。これは不思議なもんですよ。だからこういう基本を見直そうという運動を起こしたんですが大変困ったもんです。

言葉に関するあんたの基本はなんだ。あんた日本人だろう、だったら日本語の正確な読み方書き方くらい知りなさい。知りやしないんですけど、ほとんど。びっくりするほどです。私も大学に講師でいましたが、最初にいやんなっちゃったのは字が読めないからです。ばかばかしくなる。文学部ですよ。文学部の学生がどうして日本語を書けない、読めないのですか。そうしておいてちょっとした外国語



をしゃべれるからといってしゃべれない人をばかにする。言葉に関して一番恥ずかしいのは日本語の読み書きができないことじゃないか。こりや日本人がいくら英語にたんのうになつても日本語をしゃべれなくなつたら全く意味がないでしょう。

こういう基本をどこかに置いてきている。全く困ったものです。いろんなことを、ものを見る自分が狭まつてきている。

この間学校の先生に修学旅行の目的を聞いたら1人も知らなかつたんですよ。自分の郷土にない文化財、文化施設を見学するのが1つの目的、それから団体行動を通じて子供に自覚を持たせる。その中には保健衛生まで入っているんです。それから危険の判断つくように団体行動が必要。

そんなことやってない。ただ毎年時期がくると準備して出かけてゆく。今や日本国中、知っているわけですから、行く所がなくなっちゃうから外国へ行こうということになる。そしてトラブルがしょっちゅう起きる。そんなもん辞めたらいいと言うが、絶対やめないです。これが世界的傾向だといいけど、残念ながら日本だけですね。日本にしかないからやめろというわけではない。くだらないから辞めろと言っている。そういうと怒る。しかも理論的に言い返さず既得権だからそうです。

PTAだって下らないからやめちまえというと怒る怒る。だいたいPTAは個人の意識で希望者がやるものなんです。占領軍の勧告を受けた文部省があわてて全国に指令を出し、それまで父兄会だったのがPTAになつちゃつた出発点からおかしいですよね。結局何をするかというと、経済的に学校を援助する。あとは問題が起きた時に圧力を加える。ただそれだけになつた。

それだからやめたがいいというと感情的に怒る。学校給食もやめろと言って半殺しの目に遭つた。日本は明治36年ごろからやってま

すよ。山形県で初めてやつたが、これは貧民対策ですよ。お弁当持つてこれない貧しい子供たちに学校で御飯を食べさせる。戦後は貧しくてお金持ちも御飯がないからせめて子供だけは少しでもと始つた。

だが今は飽食の時代です。しかもあれはちゃんと麗々しく目的が書いてあります。マナーを教える。そんなこと聞いたことがない。みんなひどい。目的に沿つたこと何ひとつやってない。文部省は年間400億円も金を使っていて。何しているか。母親が樂するだけ。だからそういうことはもう1回見直すことが必要、そうでないと進歩がないよというと、怒るだけ。勝手にしろという気になる。

その人生なんてそういうものの積み重ね。試行錯誤の繰り返し。だから若い時はなかなか結論をだせずに悩んだ。それが後になってよかつた。今の若い人はほんと結論だしちゃうでしょう。今はいいですよ。40過ぎてから随分苦労すると思う。これはしようがない、若い時逃げたんだから。運命の岐れ道なんてのは毎日ありますよ。基本と言うものを見ていると目に映ります。基本を見てない人は全然意識していないですが、しまつた振り向いた時には取り返しがつかない。これがほんとは怖いですよ。

私は1人でこもって仕事をするのは性に合わない。それが作家になる運命になったのだから人生は分からぬ。どうしてか。交通事故に遭つたからです。あれがなかつたら作家にならなかつた。

昭和33年。酒を飲んで歩いて後ろから酔っ払いの運転の外車にはねられた。ほんとボンネットにのっかつて前に落ちた。車の下で7ドル半引きずられて、着ているものが火で燃えたようになった。10日たつて頭がいくらかはつきりした時、主治医に「酒が入つてよかったです。しらふだったら死亡していた」と言わされた。それから酒こそ恩人と毎日飲んでいた。外歩くときはしらふじゃ怖くて。25歳だった



から回復が早かった。しかしいざ退院するときに調べたら脊髓（せきずい）がずれているのが分かった。体を石こうがためし、立っているか横になっているかしかなく、8ヶ月間アパートの部屋で過ごした。あまりに退屈で、最初は人から本を借りて読んだが、すぐに読む本がなくなった、それであと、腹ばいでも字が書けるなと思って時間つぶしに450枚の推理小説を書いた。そのまま積んでいたら惜しくなって、だれかに見てもらおうと江戸川乱歩賞に応募して忘れていた。

そしたら電話で「入賞しなかったが入賞に準じる作品なので本にする」と連絡があった。印税が入るのでうれしかった。当時1万円の月給だったが、印税は18万。なんと18ヶ月分です。それからあれよあれよという間に作家になつた。病気休暇を次々に役所に出しては、うちで原稿を書いていた。それで、「いい加減にしろ」と辞めさせられた。29歳で転職もできないので、もう書くしかない。そうして今日までできている。

私が作家になつたためにいろんな人と知り合つた。その意味では完全に私だけの人生ではなく、大勢の人の人生に何かの関わりを持っている。それが1人の人生を決めることがある。そういう意味では人生は怖い。

実は私は20歳の時に、同じ年の人妻と心中未遂をしたことがある。山にはいって薬を飲

んだが苦しいもんだからいつの間にか谷に転がり落ち、そこをたまたま通り掛った人に発見された。旅館に運び込まれ、当時の新聞に大きく出た。回復して東京へ帰るため汽車に乗つたらガクンと衝撃。骨を轢いた感じだ。30過ぎの人が汽車に飛び乗ろうとして下に落ちたのだった。それがたまたま私が乗つた車両の車輪が轢いた。このことで人生観が変わった。

その人は少しも死にたがってはいない。一生懸命に生きようとして汽車に急いでいたのだろうその結果足を滑らせ、生きていたくて仕方ない人が、死のうとして死ねなかつた私が乗つていた車両の車輪に轢かれた。

よりによってなぜ私が乗らなければならぬのか。これが不思議。これが人生の恐しさであり、人生観の元を作つた出来事です。「辞めた」と思った。生死の問題は一切辞めようと思った。死生一体。生死でもって価値を決めたらいけないんだ。これを神と人はいうのかもしれない。なんか支配者がいるんだなと感じた。そういうものだと思う。1人の物書きのたわごとだと思ってもらって結構。人の運命は少しのことからものすごく大きなことをつくることだけは信じてほしい。60年生きた人間の経験と実感からいうのだから間違いない。(拍手)



「邪馬台国のナゾと吉野ヶ里遺跡」

佐賀県文化財課

課長 高島忠平

おはようございます。今日は邪馬台国の今日的な意味に触れながら、吉野ヶ里遺跡の重要性について考えてみたいと思います。

一昨年2月、吉野ヶ里遺跡は新聞、テレビで大きく報道され国民的な関心を呼びました。関心の多くはやはり邪馬台国の人存在とかかわっており、中国の史書「魏志倭人伝」がよく引き合いに出されました。

魏志倭人伝は2、3世紀の日本の様子をまとめた資料としては最古のもので、日本には30余りの国があり、その最大勢力は7万余戸を抱える邪馬台国でこの国を中心に政治的な連合関係がある。一方ではこれに敵対する狗奴国があり、戦争状態にある。などと書いてあります。

邪馬台国は男子の王を立てたが政治的安定が得られず「一女子」を王としたと言います。これが卑弥呼です。彼女は鬼道に通じよく衆を惑わす、つまり祖靈を祭り、神がかりしてその託宣を民衆に告げてリードする女王として描かれています。

卑弥呼には弟がいて政治を助けた。天皇を頂点とした古代律令国家とは違い、政治と宗教が分離しているのが特徴です。祭政一致とは違うわけです。

魏志倭人伝は信用できないという人もいましたが、吉野ヶ里遺跡で、その記述とよく符合するものがたくさん発見されまして、その記述には信ぴょう性があるということになりつつあります。

終戦まで日本の歴史や日本人のルーツは1つの歴史観で説明されてきました。「日本書記」や「古事記」の神話をベースに、1つの筋書きで語られてきたわけですが、戦後、そうした歴史学は崩壊し、新しい歴史学が生まれました。邪馬台国論争もその1つです。

日本書記や古事記の最大の特徴は国家が編さんした歴史書だということです。中国では歴史家が客観的に記述するのですが、日本はそうではない。したがって、支配する正統性を歴史的に説明しようとしたわけです。その編さん者たちは近畿・邪馬台国論者で卑弥呼に見立てた神功皇后という架空の女帝まで作り出し、古くからの中華との関係を説明しています。

日本での古代国家の成立はいまだにナゾが多く、邪馬台国がどこにあるか、ということでも大きく道筋が違ってくる。邪馬台国を近畿に置くと、当時すでに九州を含む西日本全体を統一するような国家があったということ



になり、九州に置けば、地域ブロック的な連合政権の段階で、統一のイニシアティブをかけて戦っていることになる。

邪馬台国はこれまで考古学的な遺物や文献で語られてきたが、吉野ヶ里遺跡では古代社会そのものの成長状況が地についた形で出てきた。そこに吉野ヶ里遺跡の大きなインパクトがあったわけです。その1つは日本最大の環濠集落であり、もう1つは最古、最大の墳丘墓がありました。

考古学者の邪馬台国論は近畿説が9割で、私のような九州説をとる者は1割でしかない。近畿説の拠り所は卑弥呼が魏からもらった100枚の銅鏡という三角縁神獣鏡が近畿を中心に分布していること、さらに大規模な環濠集落が近畿にあるという点でした。このうちの環濠集落が吉野ヶ里遺跡の出現で崩れ去った。近畿最大の環濠集落が25ヶ所であるのに対して吉野ヶ里は40ヶ所ですから、これは文句がつけられない。

吉野ヶ里遺跡の環濠、内外の施設は倭人伝の記述内容と符合します。倭人伝は卑弥呼の周辺について官室や樓觀、城柵などを書いている。官室は環濠集落内部に3重、4重の構に囲まれた一角があり、樓觀は物見やぐらを当てることができる。城柵はどうかというと、城は上げ土に成ると書くように、土を盛り固めたものをいった。吉野ヶ里の環濠は溝を堀った土を盛り上げて土塁を築いている柵。ここには柵を立てたと思われる柱穴があり、これはまさしく城柵となる。

ほかにも倭人伝にある邸閣とおぼしき倉庫がある。邸閣というのは公の租税を収める倉であり、吉野ヶ里はムラからクニへと成長する古代の都市のありようを持っている。こうした遺構の発見は初めてであり、今後、こうしたものが発見される可能性は少ない

吉野ヶ里遺跡はまさにメソポタミアの古代都市にも似た構造を持っている。都市の条件として「市」の遺構がないということがいわ



れますが、これは考古学的にはかなり難しい。ただ、状況証拠はあるんです。邸閣と呼ぶにふさわしい倉庫の存在もそうだが、最古の青銅工房跡があり、その製品とみられるものは玄界灘沿岸部に分布している。こうした製品の供給と同時に、交易で入ってきたものがある。その1つが石包丁で、飯塚市の立岩遺跡のものが見つかっている。交易を行う社会があり、「市」の存在は十分に考えられる。

このほか、九州にしか存構し得なかった巨大建築物の独自の工法もある。有明海沿岸の豊かな土地を考えると、倭人伝の世界は北部九州であり、古墳時代になって政治文化の中心となる久留米一八女地域が邪馬台国として最も適切であり、物見やぐらから見える範囲にあるというのが私の考え方なんです。

今後、吉野ヶ里の調査、分析を通じて弥生のクニの構造を究め、学術的な価値を明らかにしたいと思います。吉野ヶ里遺跡の保存活用のための整備に皆さんの智恵と協力をお願いして今日の話を終わります。ありがとうございました。(拍手)

あなたの心にともしびを

1 班

浦 朋 康

ライラには、出会いがあり、年次大会には別れがある。いつの頃からか、そう思うようになった私にとって、最後のライラ参加のチャンスがやってきた。過去6年間参加し続けた私、もうそろそろ後進に道を譲ろうかとも考えたが、今回だけはどうしても参加したかった。20年前の謎を解く為。

今をさかのぼること、約20年前、あるテレビのクイズ番組で、パネルにランダムに並べられた『ひらがな』から、言葉を作るコーナーがあった。その時、レギュラー解答者のある作家の方が、『上州ナガドス』とお答えになった。以後20年間、私の頭から離れないものである。確か、その作家のお名前を『笹沢左保』とおっしゃったような気がしたのであるが。

笹沢先生の講演を聞きながら、今か今かと、質問の時間を待ちわびていた私であるが、とうとう質問の時間はなかった。ひょっとすると、恥じをかかずすんだのかもしれない。
(羞恥心と常識は、とうの昔に捨てた私では

あるが。)

最初の目的は達成できなかったが、今年もまた多くの人と知り合うことができた。最後に、わが1班のメンバーを紹介したいと思います。深町直子(一般・多久)『久し振りに私が近寄って逃げない女性を発見した』小出真実(佐賀RAC)『鞠売れてますか?』宝蔵寺泰子(伊万里RAC)『1月生まれの銀行員同士が佐世保の年次大会以来、また同じ班になりましたね。』池田晴子(諫早RAC)『登録料倍払うから、25周年招待状下さい。』富永正・木下義昭・松尾泰史(鹿島RAC)『10周年ガンバッテ』池村満宏(佐世保RAC)

『台湾ではおてやわらかに』浦朋康(佐世保RAC)『某ロータリアンから、これだけアクトに熱中して、よく銀行首にならないものだと言われましたが、7月から普通の銀行員に戻る予定です。』

長崎南のS先生様『私は残念ながら、今年限りですので、今度先生が担当される時は、後世に残る過酷なライラを開催して下さい。』

何かを作り出せるようなプログラムを

今回自分はライラに初めて参加しました。これゆえ率直な意見をのべさせていただきます。

今回ライラのメインテーマの一つ、笹沢左保先生の講義ですが、ものすごく癖のある人で、自分の実体験に元づく話で、個人的にもファンでしたので聞きごたえがあり興味を持って話しが聞けました。2日目の高島忠平先

生の吉野ケ里についての講和は、先に予備知識をあたえてもらって、現地ではガイドさんがつきっきりで詳しい説明をしていただき勉強になりました。ただ吉野ケ里の講和が長すぎ、いねむりの人も多く見うけられ、興味のあるものとないものの差があったのでは、と感じています。

後で参加留学生に話を聞いたところ、こ

の2つの講義については、全々何のことだかわからないといってましたので、その所にも少々注意してほしかったです。

夜のレクリエーションについては内容とも充実しており、やっとみんな友達になったなと実感が沸いて成功だったと思います、しかしこれが1日目の夜にでもあれば、きっと楽しく有意義なライラが送れたのではないかと思います。

今回のテーマが時を視つめてということで、空いた時間は自分達の自由にさせて、自発的な行動をさせようという意図と思うが、手配

しすぎて配慮が欠けていたのではないか（各班分けは、同じRACの者を別々にした方が、より多くの人と知り会えたのでは。又班単位の行動が少なく、班長の仕事と内容等が不明確であった。）と思えました。

全体的に講義、ぱっかりで受け身的になってしまい、自分達で、何かを作り出すということがプログラムの内容にあってほしかったし、もっと体を使って何かしたかったと感じました。

最後に、ホストロータリークラブの方々楽しい3日目どうもありがとうございました。

たくさんの友達とこれからも友好を深めたい

5 班

田 中 義 彦

今回ライラに参加するにあたって、三つの目標をもっていました。一つは、幾度か参加したライラの中で、プログラムにとらわれてばかりで自主性が發揮できなかつた事が多かつたので、今回は、自分で今、何をしなければならないのかを考え、行動していく事です。二つ目は、多くの参加者の中で、一般青年や、留学生、高校生、ローター・アクトなどいろんな分野の人と会える機会だから、自分の方から積極的に話しかけ、きっかけを作っていく事です。今回班で行動する場が少なく班のメンバーと話す機会があまりなかったのが残念でした。三つ目は、時間を大切にしていく事です。休憩時間や自由時間など、漠然と過ごすのではなく、班のメンバーや、参加者の方とのコミュニケーションをとつていきたかったのですが、できなかつたのが残念です。

今回は、前回の諫早のライラの野外よりは、楽だったのですが、講演など日頃私達が考え

ている身近な話などがあたりたいへん有意義なものでした。吉野ヶ里見学は、地元にいながら行った事のなかつた私には、いい機会になり、おもしろく見学しました。二日目の夜のレクレエーションは参加者全員とのコミュニケーションがとれて、多くの人と話す事ができたのですが、このレクリエーションが、もっと早く行われていれば、もっと多くの人と話しができたと思います。

今回ライラに参加して、自分自身反省する事が多く、そして勉強させられる事も多くありました。友達もでき、今後連絡などと/orて友好を深めていきたいと思います。この経験を活かし、今後の仕事、日常生活、ローター・アクト活動に役立てていきたいと思います。

このライラを計画された先生方、ライフ参加の皆さん、お疲れ様でした。

6 班、ちよつと一言

6 班 一 同

唐津東 R A C 渡邊信一郎

今回の「ライラ」はローターアクトの色があまり入ってなかつたので少々おとなしかつたが、一参加者として十分楽しめまた新しい友人達も得ることができ私にとってはとても有意義な3日間でした。

多久 R C 古賀文雄

初めての「ライラ」参加だったんですが、一日目の笹沢先生の講演、二日目の吉野ヶ里見学、レクリエーションとたいへん楽しく2泊3日すごせました。

尾形 史善

今回一般参加とライラに参加しました。皆一人一人性格個性が違う人達との交流で、自分自身これから的人生観の考え方、団体生活のなかでの行動を改めて考えさせられました。また機会があれば次回でのライラに参加して多くの人達と出会っていきたいと思います。

サイペイファン

吉野ヶ里遺跡を見学させていただいたとても良かったと思います。しかし時間がちょっと短かったので、すこし残念な気がしました。

真浦みちる

今回初めて参加させていただいている勉強をして歴史などわからないこと少しづかたかなと思う一番のお土産は友達が出来たことです。

佐世保 R A C 吉田 美保

二泊三日自然の中で全く、テレビがない生活、はじめて会った方とのグループ活動等大変勉強になりました。レクリエーションは今後のアクト活動で役立たせていただきたいと思います。

神埼 R C 宮地 孝典

今回が初めての「ライラ」だったので一日目はなにもわからず緊張していましたが、二日目のレクリエーションでみんなうち解けたように思いました。講演、吉野ヶ里見学など楽しい三日間でした。

神埼 R C 伊東 義輝

ライラの参加により、多くの事を学びました。班長という大きな役割の上での困難を感じ又、団体生活での日々の主張の重要さがいかに大事か…。

これを良い社会勉強の糧として、仕事にも広く生かして行きたいと思います。

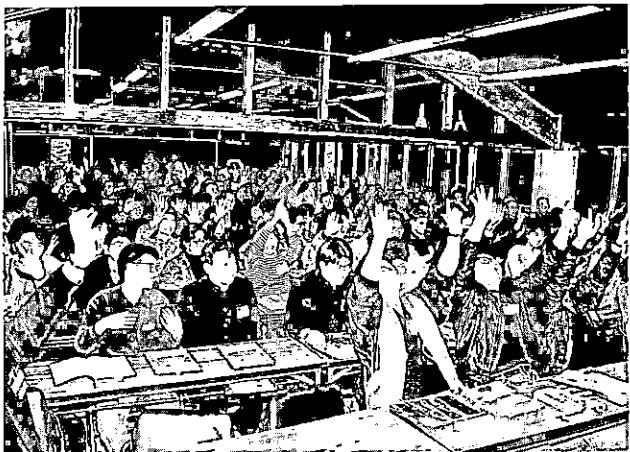
「R Y L A」に参加、心より感謝

8 班

佐野 博行

私は、今回、R Y L Aは、もちろんの事、ロータリークラブの、行事に初めて参加させていただきました。その為、個別のプログラムよりも、R Y L A全体をふりかえって、書かせていただきます。

最初、会社の上司からR Y L Aに参加する



に良かったという気持ちで、いっぱいです。

夕べの集いで始まり、班別になって、簡単な自己紹介を終えたじてんで、初めて、ローターアクトというクラブの存在を知りました。

その後も、他の班のローターアクトの方や、一般から参加されている方などと、双方の職場の事、趣味についてなど色々、話す事が出来、交流を深めるという点で、私自身、大成功をおさめたように思います。

社会人になって、初めての集団生活で、私自身、第一に感じた事は、人と人との出会いの大切さ、自分の回りの人間だけでなく、色々な環境の中で、生まれ育った、人達との交流により、お互いに吸収しあう事により自分を

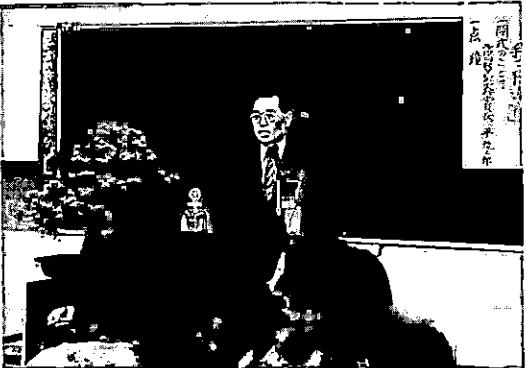
みがくと共に、何事にも、相手の立場に立つて物事を考えると、いう事を、自分なりに学び得たように思います。今日、班長を務めさせていただいた上で、色々、アドバイスしてくださいました、8班の皆様、各地域のローターアクトの方々に、心から感謝しています。

又、ロータリーの方達にお願いしたい事は、以前の私の様に、まだ、RYLAに参加した事がなく、ロータリーや、ローターアクトの存在さえ知らない人の為に、「RYLA」、また、その他の活動を、どんどん続けていって下さい。

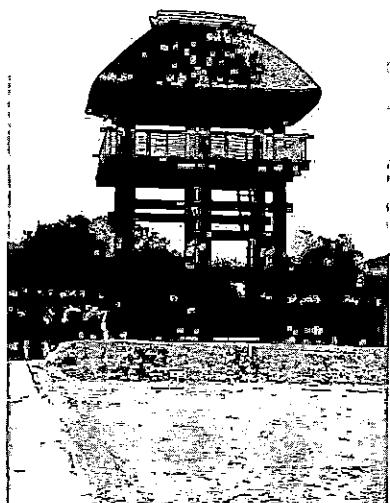
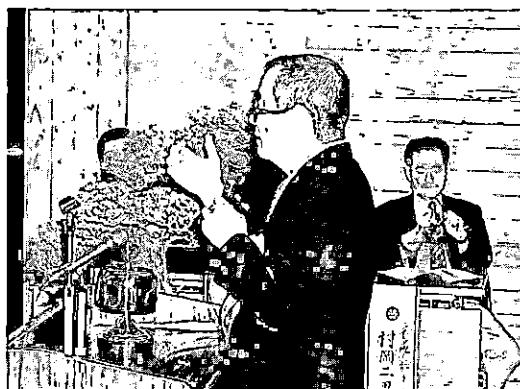
「第12回 RYLA」に参加された皆様、本当にありがとうございました。

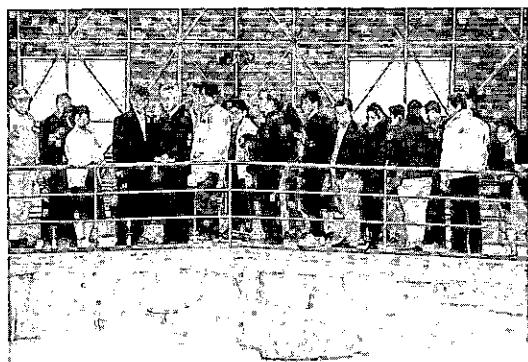
ライラ、スナップ



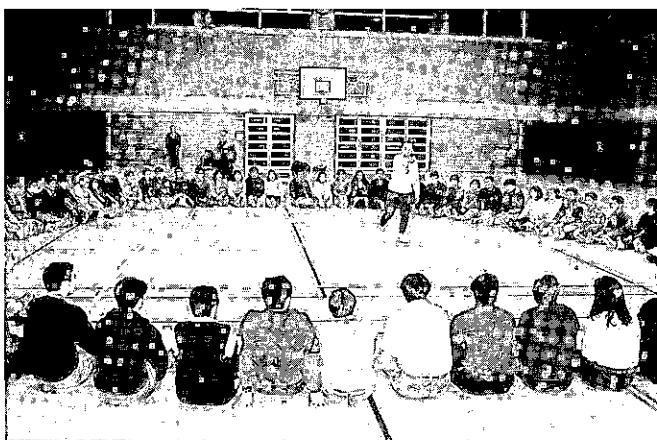


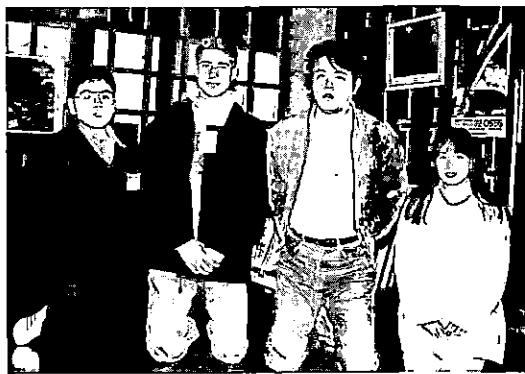
ライラ、スナップ





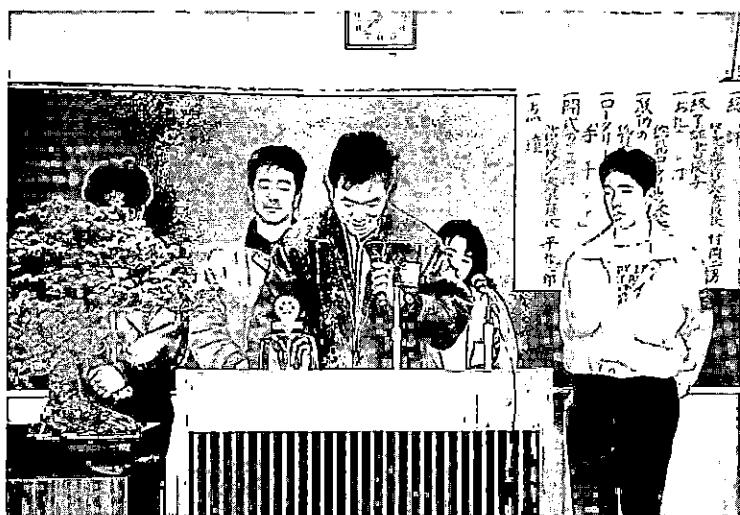
ライラ、スナップ





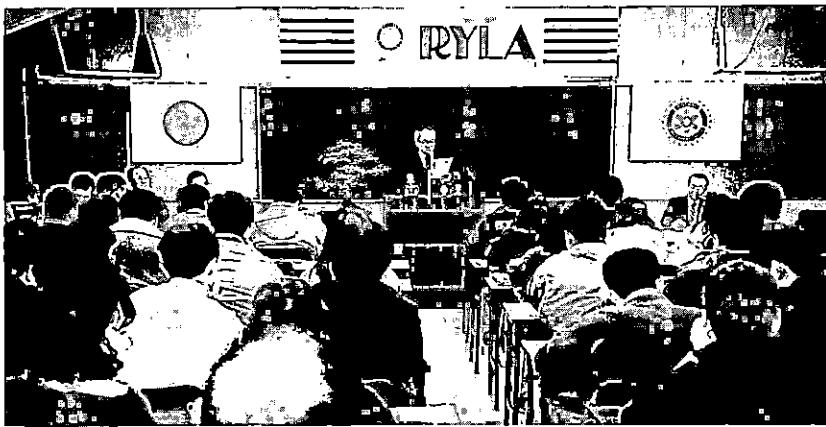
ライラ、スナップ







ライラ、スナップ



自由交歓 反省会

1 班

1班を代表して発表させてもらいます。私が初めてRYLAに参加したのは今から6年前の第6回RYLAで場所は雲仙でした。ですから今回が7回目になります。第6回は雲仙で雪中登山をやりました。第7回の佐賀は葉隠れの里探訪ということで佐賀の古墳を回りました。8回が諫早でポエムハイキングと言いまして、外を歩きながら詩を作りその発表をやり、第9回が佐世保でウォークラリーをやり、その次が伊万里でしたが、私、2回目が知り合いの結婚式で夜来たのですが、これを通じ感じたのは、結婚式期間はRYLAをやらないで欲しいと言うことです。

そして第十回の去年のRYLAが、一番厳しいRYLAでテントの中で寝まして1歩テントから足が出ると、雨で足が濡れてねれませんでした。ある人に言わせますと、今年は去年のRYLAに比べ天国と言うことでした。

さてこれから本題に入ります。今年の反省点ですが、一般青少年ローターアクトが大多数を占めると言う状況で、ローターアクトばかり固まってしまったのではないかと思います。私の会社からも一般参加と言うことで2人來たが、2日目の記念撮影が終わるとさっさと帰ってしまいました。私が思ったのは、その2人を溶け込ませる努力が足らなかったという点と、私はその2人に佐世保から車で連れてきてもらったので、どうやって帰つていいのかと言うことです。

7回RYLAに参加して思うのは、RYLAはその内容が重要ですが、RYLAで過ごした期間をどうやって地元で実生活に生かすか

が重要だと思います。

3分経ちましたので、私の意見を終わりまして、班の紹介をします。一般の人と余り話せなかった。時間通り動けなかった。レクレーション以外、班で活動することがなかった。班内部の交流がなかった。班自体でテーマに即して話せなかった。自分たちが自主的に活動していないので良くなかった、ということあります。

最後に昨日の問題ですが、「何故体育館に木や草がないのか」それは「体育館はまだ子供だから」ということです。「何故地球は丸いのか」「地球は大人だから、自然に人間が丸くなった」と言うことです。

2 班

皆さん今日は、第2班です。感想を述べる前にRYLA地区委員長の村岡先生始めホストの佐賀西ロータリークラブの皆さん、関係者の皆さん、大変お疲れさまでした。

このRYLAに参加し、本当に楽しい2泊3日でした。その中で反省は3点。第一に自分たちでやるRYLAだったか、与えられたプログラムを消化するだけのRYLAではなかったか。具体的には食事を我々の手で食堂とかを借りて食事を作るのもいいんじゃないかという話が出ました。

二番目に時期的問題。この2月でなく、もっと暖かい時期にやれないと言う話が出ました。その時期だと、夜に野外でキャンプファイヤーもフォークダンスも出来る。

3番目に3日間通して考えられるテーマを持って来ているかどうか、テーマが与えられただけで、与えられただけをやるRYLAで

はなかったか。

ローターアクトの他の団体と違うメリットは、バックボーンにロータリークラブがあるわけで、ロータリークラブの豊富な経験などを対話を通して、我々に教えてもらえないかと言う意見が出た。もう少し、触れ合う時間が欲しい

苦口をたたきましたが。2泊3日は本当に楽しいRYLAで、また皆様とどこかで会える日を楽しみにしています。

3 班

3班です。この研修を終えて感じたことが幾つかあります。1つは内容的に分からなかつたというのが多かったものですから、この研修がどのような趣旨で誰の為に行われたのか、ということを自分たちがもっと考えておくべきじゃなかつたかと言うことです。

2つ目に知り合う切っ掛けになった。人と出合って人と話し触れ合って、自分自身の勉強になりました。

RYLAの要望ですが、班行動がほとんどなかつた。せっかくこんな自然の中にあるのだからオリエンテーリングに親ぼくを深めるものを持たせたら、もっと意義あるものになつた気がしている、ということが出来ました。以上です。

4 班

4班です。お話が日本語で言われていたので、私が知らない言葉が多過ぎて実は全然分かりませんでした。しかし、いろんな人と友達になりゲームをし、楽しく嬉しかったです。

5 班

5班です。真っ先に集合時間に多少遅れたと言うのが出たのですが、5分前行動を実行するという当たり前の行動が私たちは出来ませんでした。

笹沢先生の話がとっても良かったというこ

とで、タイトル名は忘れたんですが、その本を家に帰ったらすぐ読みたい。留学生と友達になれたということで、5班の人がバスケットボールをしたと喜んでいました。

昨日行った吉野ヶ里は、発掘された形で実物を見たかったということで、案内人に丁寧に説明してもらい聴き入りました。

それから団体行動に慣れるまで時間がかかり、班ごとの行動がうまく行かなかつたということが出ましたが、2日目のレクリエーションは全員協力して結構楽しめました。また他の班の人と話す機会が欲しかったというのも出ましたが、もっと自分から話し掛け1人でも多く友達を作りました。

ちょっと贅沢なんですけど毛布が少なかつた。売店が欲しかった。部屋の明りが暗かつたという3点が出たんですが、便利さに慣れていますだけに便利さ、有難さを感じた。

最後にこれを機に今後の仕事や日常生活に役立てていきたいと思います。皆さん本当に有難うございました。

6 班

6班です。皆さんも御存知の方いらっしゃると思いますが、メンバーを紹介させて頂きます。

唐津東の渡辺君、多久の古賀君、神崎の宮地君、佐賀西の緒方君、佐世保の吉田さん、長崎南の蔡さん、長崎西の真浦さん。自分は初めての研修参加やつたんですが、ここに来るまでは嫌々ながらまして、班の編成する時もいろんな地区からいろんな性格の人が集まって、果たしてうまく行くのかと思いましたが、いろんな人と出あえて、またこんな機会があれば参加しようと思いました。

反省点としては、なんの行動にしても集合がいつも遅れ、仕事をしても時間は大事なので、その辺は大変勉強させてもらいました。

2泊3日の短い期間でしたが、本当にどうも有難うございました。

7 班

今日は。7班の井手です。聴きづらいかも知れませんが発表致します。今回集まつた人は R Y L A は始めてで、分からぬながらもみんな頑張ったと言うかよくやつたと思います。

反省点を具体的に発表します。スケジュール的に椅子に座っていることが多く、レクレーションなど体を使うことが余りなかった。初日にレクレーションをすれば、もっと親しくを深められたのではないか。

第二に、構話は内容的に堅い話で難しかつた。出来れば構話後、質疑応答の時間があれば内容も分かり易かったのではないかということです。それに単純ですが寒かったです。この会に参加して、日常接している職場、学校の人とは違った環境の人と話が出来た。テレビや販売機などがない所で自由時間があったので、プレイルームの開放をしてもらえば良かった

設備面で販売機がなかった。天候が悪く湿気があったので廊下が滑り易かった。班行動がもっとあればよかったです。

次に昨日のクイズの回答ですが、「プレイルームに植物がない」。この回答は「植物自身が生えたくなかった」それに「管理人さんが夜中に刈り取っている」「土がない、栄養が行かない」「生育出来る条件が満たされてない」。第2問の「地球の星が何故丸いか」は、第一に空気抵抗がないから、第二に余り離れているので丸く見える。川などで上流はゴツゴツしてるが、下流に行くにしたがって丸くなると原理は一緒という回答です。

僕自身の感想を述べると、ここにきた時周りに何もなくて正直いって驚きました。皆さんはどうだったでしょうか。何もない無の状態から一步踏み出す勇気、その辺がここに来て改めて気付きました。

8 班

8班の班長の唐津西の佐野です。反省会で出たことを簡単にまとめて言いますと、まず班編成ですが、ローター・アクトをバラバラにして欲しい。同じクラブに人が固まり過ぎていたからです。あと留学生もバラバラになり各班の中での交流を深めて欲しい。年が離れて話が合わないのも困ります。さらに班別行動が少なかった。

プログラムの件ですが、全体的に無駄な時間が多かったです。空き時間を利用する機会が少なかった。自分たちの空き時間を考えることもなかった。笹沢先生の講話についてですが、物を書く人の話として、ちょっと理屈っぽかったです。年代のギャップがあった。

高島先生の話は実際、吉野ヶ里遺跡を見た後、講演を聞いた方がよかったです。現地で実物を見ながら聞く機会があれば良かった。講演は時間が2時間と長くダラダラでした。今回の R Y L A 全体を振り返って、青少年としては受け身の R Y L A だったということです。

最後に私の感想ですが、R Y L A に初めて参加してどういう人が集まるのか不安だったが、実際にきてみていろんな人と一杯話が出で、交流を深められ、来て良かったと思う。有難うございました。

9 班

9班です。私たち今回、石川君以外は初めての参加と言うことを心に留めて頂いてお話を1つ。笹沢先生の講演は実体験をしゃべつてもらいものすごくためになった。高島先生の話は予備知識を与えてもらい、現地でガイドさんの機関銃のような説明もあり、樓らんの高さが12メルというような詳しい所まで教えてもらって、興味も湧いためになった。講義の内容が2時間ということで、眠っている人もいてちょっとなと思いました。

テーマが「時代を視つめて」ということで、

この意味として自分たちの時間を多くとって自発的な行動をさせようと言う意図だと思いますが、余りにも手放し過ぎて若干の配慮が欠けていたという感じで不親切という感じです。

重複しますが、全体的な講義ばかりで、ほとんど受け身というプログラムで、自分たちで作り出すとか、やり遂げるとか、もう少し

欲しかった。昨日のレクレーションもみんなの名前を覚えるのにプレッシャーを感じたんですが、これが最初に来ればもう少し打ち解けた2日間になったと思います。

最後にホストロータリークラブの方々有難うございました。



ガバナー総評



無から有を造り出すこと

R I 第274地区ガバナー 内田 衍

昨夜、総評を考えましたけれども、今の皆さんの話を聞いて全く違った総評をしなければならなくなりました。私たちがこの場所を選びましたのは、皆さんと一緒に1つの器の中に入って、お互いに時を見つめて考えようというテーマにもとづくものだと思います。そこで皆さんのお考え方と私たちの間にギャップがあったのは必然的に当然だと思います。

ただ我々の考えとしては、皆さんはある程度、社会のことが分かっておられる指導者になられる方と思って取り扱い、計画が考えられたと思います。そうした時にこの場を作つてもらえば、後は自分たちは何をすればいいのかと言うことを1つの班の中で論じ合うことが先決ではなかつたかと思います。

計画についてはそれだけの時間と労力と金を費やしながら、その場を与えたことは、よしとするか物足りないと思うか、それぞれが評価することであると思いますが、後で皆さんのが今年のことはどうであったと言う時に、本当の評価と反省が出てくるのではないかと思います。

まず冒頭に立派で素晴らしい設備と環境を使わして頂いた自然の家の方に拍手をもってお礼を申し上げましょう。そして今回の開催を数ヶ月にわたって企画立案された方々に拍手でお礼を申し上げて下さい。

それに先の反省の中で、ローターアクトの皆さんと何か分離するところがあったとお聞きしましたが、我々はアクトの方がロータリ

ーのことを十分理解されて私どもとお付き合いされていると思います。一般参加者はそれなりに興味と友情を作ろうと言う考え方で参加してもらっていると思います。そのギャップをローターアクトのキャリアメンバーの人が一般参加者、特に若い人をといて頂いて、将来、アクトを理解してもらい、参加してもらえるよう導いてもらえば幸いと思います。

反省の言葉を聞き、はっとする所もあったし、個性ある R Y L A の体験をされたことについても、あの時はどうだったかと評価もあるでしょうが、昨年は極限の中で体力を作り、不服も出ていたが今では懐かしいと思われていると思います。

今年は時を見つめながら、お互いの頭脳を集中して、アクトと一般参加者と我々ロータリアンが一緒になり、お互いの勉強の成果が心に刻まれれば結果は論じません。ロータリーというのは結果は論じないことになっているのです。各々の力が社会のため自分のため発揮されれば、これで成功だったと思います。

そういうことで R Y L A のすべてというものは、結果を論じるんじゃないと言うことだけは心に銘じていて欲しいと思います。

何も与えない、不親切だ、不親切でない親切だと思います。それよりも無の中から有を取り出す形を R Y L A は求めているんだ。ロータリアンはどうしてもレクレーションに付いていけない、しかしその中でも一生懸命あなたたちの中に溶け込もうと頑張っていた。あなたたちは我々にいたわりをもってやっていることをひしひしと感じました。それでい

いのじゃないですか。

ゲーム云々じゃなく、それを考えた時、数年前こういうこともあったな、将来こうなるんだなということを、ロータリアンになった時に参考になると思います。

確かに一つ一つ取り上げると何事もなかつたと考えていますが、一つ一つ天は我々に味方して行動しやすくしてくれた。おかげで第12回RYLAも無事終了することができた。吉野ヶ里でもただ棺を見るだけでなく、古代

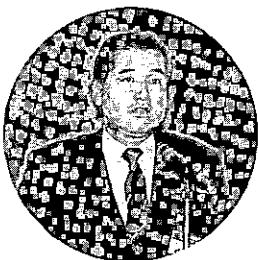
の人が時の敵に対する防備の仕方とか、そうしたものは今でも参考になる。少しも今と変わっていない。生活は全く同じだった。文化が進歩するに連れ社会は作られていることを考えると、得る所があったと思います。

最後にこのRYLAの開催がロータリアンと皆さんとの唯一の接点であります。今回ご出席のみなさんは来期もぜひ出席してもらい、新しい友達を作つて頂いて発展することを願つて総評に変えさせて頂きます。

閉会の言葉

何かを持ち帰つて

第274地区RYLA実行委員長 平 龍三郎



2泊3日のRYLA、皆さん御苦労さまでした。RYLAはなんのかと言うことを開催前考え、議論した結果、RYLAは研修の場と言うことで議論が一致しました。RYLAに参加する人がロータリアンと共に一緒に学びということでございます。社会的に責任を追うと言うことを自覚して善良な市民として、また日本国民として職業的にも社会的にも良き指導者となって、日本の國また世界の為になってもらうのが、このRYLAの趣旨ではないのかということで、RYLAの本質に戻ろうと言うことを今回実施したわけでございます。

研修と言いますと、野外研修もあり室内研修もあります。いろんな意味で今回皆さん方に一諸になって勉強してもらおうということで、いろんな時間の空白もありました。いかに時間を自分たちがうまく使うか、例えば普

レイルームの件、反省会でもありましたが、皆さん方が与えられたものでやるのでなく、プレイルームを使つたければつかわせてくれませんかと、何で言ってこないのかなと。

短い時間でも自分たちでお互い自己紹介など出来たのではないのかなと。そういう意味では受ける側でなく行動する指導者になってもらいたいと言うことも含め、今回第12回のRYLAを組んで見ました。

今回のテーマ、ときをみつめては字は時代を視つめてと書いてありますが、やはり今の時代、今の時というものが、我々や世界の人々が合理的なものを追求していっての訳ですが、本当にこれで良いのか、いろんな意味で世界環境等もありますし、本当の心の豊かさがこれで求められるのか、今回の大きなテーマとして時代を視つめてとすることで第12回のRYLAを実施しています。皆さん、何か1つ持ち帰つて考えて欲しいとお願いします。これで274地区の第12回RYLAを終了します。どうも有難うございました。

第12回 R Y L A 登録者

伊万里	前田 拓郎	R C
	飯田 正一	〃
伊万里西	中倉 政義	〃
	池永 晃一	〃
	山口 晃央	R A
	法隆寺 泰子	〃
	松尾 保彦	〃
	井出口 衛一	〃
	池田 猛	〃
	浦川 留美子	〃
	松尾 理恵子	〃
	Andrew Patriss	交換学生
	中尾 良樹	R A
唐津	北島 俊郎	R C
	奥村 豊	〃
	藤竹 保子	一般
	尾崎 りか	R A
唐津東	時津 規美生	R C
	腹巻 勝也	〃
	坂本 達也	〃
	宮島 傳二郎	〃
	渡邊 信一郎	R A
	山口 昭紀	〃
	一力 剛	〃
唐津西	中嶋 泰生	R C
	川添 親幸	〃
	太田 重治	〃
	山辺 忠厚	〃
	中島 登志雄	〃
	瀬戸 伸雄	〃
	河原 淳也	一般
	佐野 博行	〃
多久	古川 真澄	R C
	福地 晋	〃
	藤川 範史	〃

	古賀 文雄	一般
	岡本 恵美	〃
神埼	宮原 莊治	R C
	宮地 勝朗	〃
	伊東 義輝	一般
	宮地 孝典	〃
小城	増田 一雄	R C
	高木 薫	〃
	堤 克彦	〃
	水田 勝則	〃
牛津	野田 栄治	〃
	力久 利保	〃
	水田 純治	〃
	中原 秀樹	〃
	木原 伸一	〃
有田	篠原 剛雄	〃
	山口 八郎	〃
	椋露地 英明	〃
	牛塚 信雄	〃
	高原 武彦	〃
	中山 武夫	〃
	井手 誠二郎	〃
	中島 信行	〃
	犬塚 武夫	R A
鹿島	小川 弘水	R C
	松浦 正欣	〃
	富永 正	R A
	勝屋 弘貞	〃
	松尾 泰史	〃
	勝屋 ひろみ	〃
	水山 秋美	〃
	木下 義昭	〃
大町	山本 武	R C
	平川 繫	〃
	ピーターサンダーソン	交換学生

白石	徳廣干善	R C
	渕上勇夫	〃
武雄	山口幹夫	〃
	重松彰	〃
	中原哲也	一般
	筒井保	〃
	中村茂樹	〃
	地主秀次	〃
	田端知彦	〃
	小牧哲也	〃
	浜崎敏英	〃
嬉野	谷嶋正信	R C
	吉田安登	〃
	井手章博	一般
	井手龍太	〃
佐世保	北島美則	R C
	岡本幸実	〃
	森信正	〃
	岡井正直	〃
	西村正一郎	〃
	山下泰三郎	〃
	浦朋康	R A
	竹内一孝	〃
	池村満宏	〃
	吉田美保	〃
	橋本圭子	〃
	大人形祥子	〃
佐世保東	西岡清	R C
	福留武親	〃
	市瀬久米嘉	〃
	戸田辰彦	〃
	樋口勉	〃
	小松屋芳雄	〃
	西岡孝亮	一般
	広津俊美	R A
	松下良	〃
佐世保北	鈴木正昭	R C
	宮崎有恒	〃
	田中勝也	一般

	清水一善	〃
佐世保南	松本直也	一般
	千葉傳樹	〃
	古谷敏治	R C
	藤永辰弘	〃
	大川内克俊	〃
佐世保西	江原勝弥	〃
	重野充治	〃
佐世保中央	東大智郎	〃
	田雜豪裕	〃
	平尾陽一	一般
	原田尚志	〃
諫早	酒井達夫	R C
	高柳栄	〃
	鳥山紀男	〃
	高木正隆	〃
	矢部桂吾	〃
	植松正巳	R A
	池田晴子	〃
	久芳昌子	〃
	光石真紀子	〃
	山口広美	〃
	隈部真理子	〃
諫早北	黒田隆雄	R C
	横尾晃	〃
諫早西	山崎祥弘	〃
	平野義信	〃
	山下和義	〃
諫早多良見	石川和司	〃
	山崎弘之	〃
大村	貞松繁明	〃
	大串正昭	〃
	安永久勝	R A
	梶原美菜子	〃
大村北	岡富栄	R C
島原	喜多忍	〃
	大場堂志	〃
	木田寛	〃
	坂本周一郎	〃

	吉田清隆	R A
	石川俊男	〃
	林一弘	〃
雲仙	横田俊之	R C
	松永間	〃
東長崎	尾崎隆	〃
	松浦矩亨	〃
	佐藤茂美	〃
	多良竜一	〃
	尾崎正広	一般
	松浦奉子	〃
長崎	石丸忠重	R C
	岩永正人	〃
	市来敦	R A
	今泉健一	〃
	スティブン・マーク	交換学生
長崎中央	常岡正広	R C
	ジュニファ・スタンリー	一般
長崎東	瀬崎陽三	R A
	村井岐久子	〃
	溝口昌喜	〃
長崎北東	峰高嶺	R C
	山下勝巳	〃
	入江千昭	〃
	亀田純輔	〃
長崎北	定富学	〃
	中嶋恒治	〃
	長尾賀章	R A
	弓井輝彦	〃
	関慎二	一般
	宇野敦子	R A
	矢持奈美	〃
長崎南	潮明	R C
	瀬戸口智彦	〃
	渡部智法	〃
	林孝重	〃
	鹿野修司	一般
	久松孝寛	〃
	五島利幸	〃

	蔡ペイファン	米山獎学
長崎西	栗原博志	R C
	田中精治	〃
	四元永生	〃
	安永勝信	〃
	劉濟昌	〃
	道下みさき	一般
	真浦みちる	〃
	ジュリーシェリクティング	交換学生
	高木裕子	一般
佐賀	木村四郎	R C
	宇都宮甫	〃
	宮地敏昭	〃
	増田匡雄	〃
	原寛道	〃
	荒尾真人	〃
	秋山照雄	〃
	川内野勝彦	〃
	井手登志郎	〃
	田中丸眞廣	〃
	西村徳之	〃
	山口昭三	〃
	阿納輝久	〃
	高取理好	〃
	中村隆子	R A
	石橋誠一郎	〃
佐賀北	村岡二男	R C
	橋口健	〃
	岸川靖	〃
	元村敏明	〃
	野口伸守	〃
	大島弘	〃
	島松孝夫	〃
	立石泰英	〃
	中島光彦	〃
	田中義彦	R A
	小林直史	〃
佐賀南	鴨内幹人	R C
	中島醇一	〃

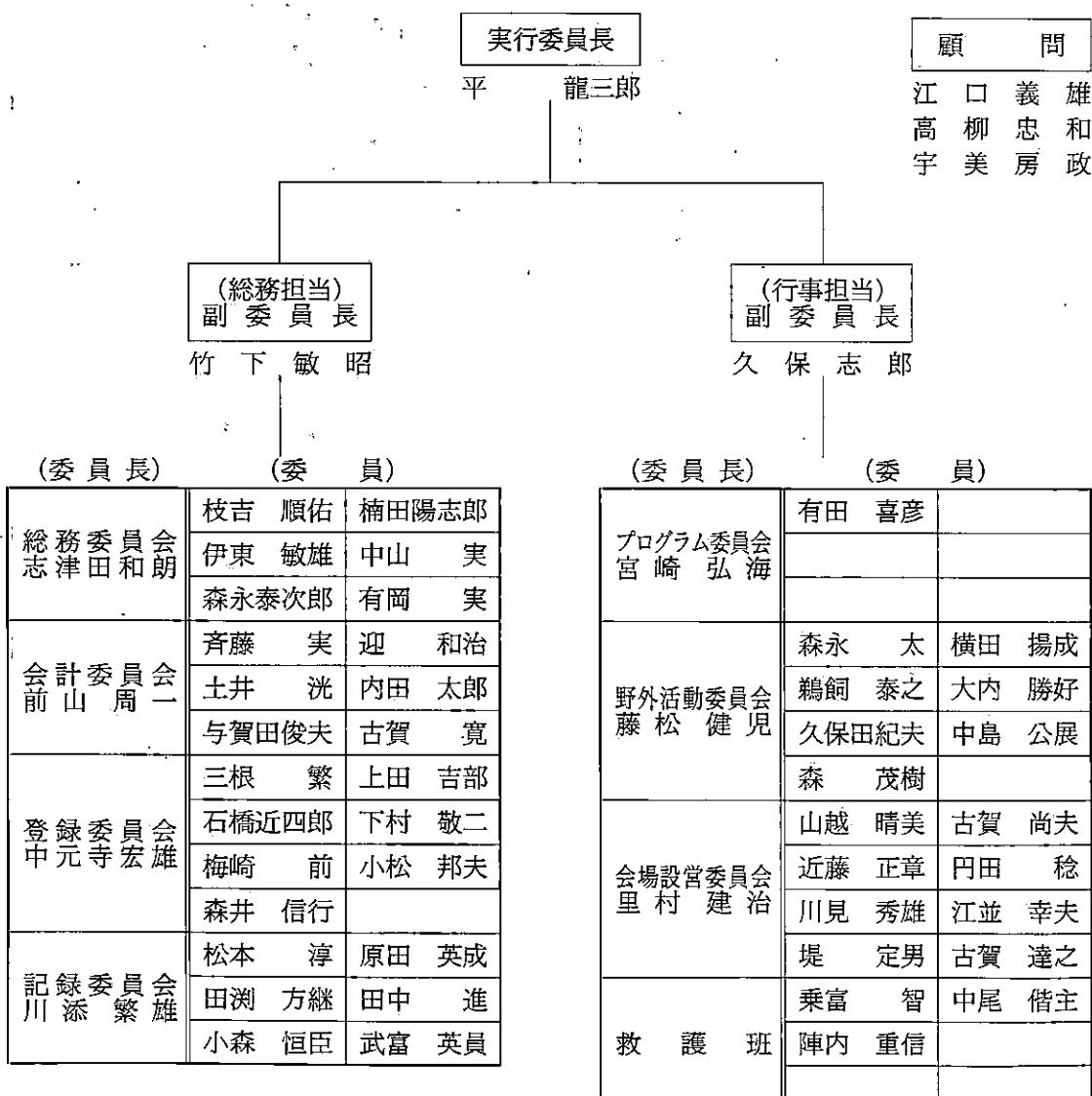
	北 村 荣	〃
	駒 井 英 基	〃
	楠 田 大 策	〃
	岡 崎 信 一 郎	〃
	堤 惟 義	〃
	山 崎 嘉 之	〃
	横 尾 和 正	〃
	田 中 洋 介	〃
佐 賀 西	尾 形 史 善	一 般
	吉 浦 和 德	一 般
	Iverson Patrica	交換学生
	内 田 正 文	R A
	小 出 真 実	〃
	松 澤 節	〃
	元 村 和 安	R C
	井 田 圓 之	〃
	草 場 立 太 郎	〃
	七 田 勝 良	〃
	江 口 義 雄	〃
	迎 和 治	〃
	松 本 淳	〃
	平 龍 三 郎	〃
	竹 下 敏 昭	〃
	久 保 志 郎	〃
	志 津 田 和 朗	〃
	梅 崎 前	〃
	川 添 繁 雄	〃
	楠 田 陽 志 郎	〃

	中 山 実	〃
	土 井 洗	〃
	宮 崎 弘 海	〃
	藤 松 健 児	〃
	中 元 寺 宏 雄	〃
	里 村 建 治	〃
	円 田 稔	〃
	大 内 勝 好	〃
	森 茂 樹	〃
	森 井 信 行	〃
	山 越 晴 美	〃
	三 根 繁	〃
	横 田 揚 成	〃
	有 田 喜 彦	〃
	久 保 田 紀 夫	〃
	近 藤 正 章	〃
	古 賀 尚 夫	〃
	古 賀 寛	〃
	森 永 太	〃
	中 尾 偕 主	〃
	江 並 幸 夫	〃
	陣 内 重 信	〃
	田 中 進	〃
	宇 美 房 政	〃
	高 柳 忠 和	〃
	乘 富 智	〃
	堤 定 男	〃

R Y L A 地区委員

委員長	村岡二男
委員	瀬戸口智彦 中江登
	貞松繁明 棕露地英明
	福田金治 黄醒彦

第12回 R Y L A 実行委員会組織



**1990~'91年度 第12回 R Y L A
決算書**

収 入 の 部		支 出 の 部	
地区補助金	400,000	宿泊・食事費	686,972
クラブ負担金	1,440,000	会 場 設 営	160,680
登 錄 料	1,664,000	記 念 品 代	689,816
剩 余 金	250,028	講 師 謝 礼	575,000
雜 収 入	30,908	交 通 費	224,180
		印 刷 費	85,440
		保 険 料	27,200
		通 信 費	99,149
		写 真 代	43,566
		記 念 誌 代	480,000
		会 議 費	169,641
		總 務 費	139,316
		記 念 事 業	100,000
		次回繰越金	303,976
合 計	3,784,936	合 計	3,784,936

第12回ライラに参加された多数の方々や、開催のために長い間ご苦労をかさねられた実行委員の方々に「より思い出深い記録誌を」との思いで、記録委員一同『文珠の知恵、とばかりに頭をつき合わせ編集にあたってまいりました。

諸々の事情により、思うようにまとまらず、計画した期限も刻々と過ぎてしまいましたが、やっとの思いで完成し、遅ればせながら発行の運びとなりました。

編集内容には、皆様方の思いに反するところもございましょうが、記録委員一同の意をお汲みいただきお許しの程お願い申し上げます。

この記録誌を手にされ、もう一度「ライラとは……」を思いおこされ、ここで感じられたことを、明日への新たな活力源としてお役に立てばと思います

皆様方のご健勝とますますのご活躍をお祈りいたします。

記録委員会一同



RYLA